

Title	英文學覺帳(戸川秋骨著, 大岡山書店)
Sub Title	
Author	岡倉, 由三郎(Okakura, Yoshisaburo)
Publisher	三田史学会
Publication year	1926
Jtitle	史学 Vol.5, No.4 (1926. 11) ,p.171(631)- 172(632)
JaLC DOI	
Abstract	
Notes	書評
Genre	Journal Article
URL	<a href="https://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/detail.php?koara_id=AN00100104-19261100-0173">https://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/detail.php?koara_id=AN00100104-19261100-0173</a>

慶應義塾大学学術情報リポジトリ(KOARA)に掲載されているコンテンツの著作権は、それぞれの著作者、学会または出版社/発行者に帰属し、その権利は著作権法によって保護されています。引用にあたっては、著作権法を遵守してご利用ください。

The copyrights of content available on the KeiO Associated Repository of Academic resources (KOARA) belong to the respective authors, academic societies, or publishers/issuers, and these rights are protected by the Japanese Copyright Act. When quoting the content, please follow the Japanese copyright act.

宋は大系本三代格の例言を見れば分るのであるが、それも見ずに同書を使用してゐる人もあるやうなので、一言書添へて置く。書物の蒐集及び出版が、我等學徒に大なる恩恵であることを明言し、資力ある人々に勸説する次第である。(幸田成友)

- |                     |    |          |
|---------------------|----|----------|
| 一類聚三代格              | 五册 | 明治十八年七月  |
| 一御室御物實錄傳菅原文時卿筆      | 一卷 | 明治三十五年六月 |
| 一豊臣秀吉三國處置太早計(征明計劃書) | 一卷 | 明治三十七年   |
| 一豊臣秀吉與高山國書          | 一卷 | 明治四十二年九月 |
| 一豊臣秀吉與前田利家書翰        | 一卷 | 明治四十二年九月 |
| 一加藤清正木下平八ニ與フル書翰     | 一卷 | 明治四十二年九月 |
| 一謠曲高野詣              | 一卷 | 明治四十二年九月 |
| 一楠正成與判文書            | 一通 | 明治四十三年七月 |
| 一道風筆白氏文集零卷          | 一卷 | 明治四十三年七月 |
| 一遼東志                | 一册 | 大正元年十二月  |
| 一日本書紀 第十一卷          | 一卷 | 大正三年     |
| 一專ら前田家に關する分         |    |          |
| 一加賀藩史稿              | 八册 | 明治三十二年九月 |
| 一加賀松雲公              | 三册 | 明治四十二年二月 |
| 一松雲公小傳              | 一册 | 明治四十二年九月 |
| 一瑞龍公世家              | 一册 | 大正三年五月   |
| 一芳春夫人小傳             | 一册 | 大正八年四月   |
| 一皇華隨班錄              | 一册 | 大正八年十月   |
| 一淳正公家傳              | 一册 | 大正十年九月   |
| 一天德夫人小傳             | 一册 | 大正十一年六月  |

書 評

一花 筐

一册 大正十三年四月

英文學覺帳

(戸川秋骨著 大岡山書店)

慶應義塾大學の戸川明三氏が、新たに世に示された「英文學覺帳」は、我々英文學と云ふ星の群を眺める事を樂しみの一つとして居る者共にとつて、誠に結構な思索の種、蕭洒な裝釘まづうれしく、行文にバタクさい氣取りのないのが、更にうれしく感ぜられた。

もつたない程、盛澤山の四百二頁、「乞食詩人キリアム・デイヴィス」以下、「サア・トマス・モアのこと」に至る前後十八項流暢な行文をあや取る爲の文學上の一手段として、「詩のことは私には分りません」「私は詩人としてのシェレエには感服が出来ぬ」と云ふ。下手に組んで、人氣役者にたてをたつて、これは少々大人げないとも云ひ得る扱方をもてあそんで居る著者は、さすがに老熟なもの。

そのお嫌ひのシェレエの話が、五十頁近くをかけて居られ、シェレエ傳のうち、最も人の興をひくその最後の事を、ツレロオニの「追想記」から譯して居られるのも面白い。キリアム・デイヴィスの詩を紹介し、變光星とも云ふべきその人となりや、彼の自敘傳によつて我々に示して居られる。その他、パトラの「夢想郷」モアの「無可有郷」、シラノオ・ド・ベルジュラツクの「月の世界及び日の世界」の話の梗概やら、作者の事、さては英國の小説源流の考察には、是非一讀しておくべきファイルインク作の

「トム・ジョオズ」の可なり詳しい筋の物語なると、力と時間とを要するお仕事の御披露、おすそ分けは、我々一般の英文學愛好者には、誠にありがたい贈物、英文學普及の名に於て、讀んでお禮申しあげます。

中にも、これもその道の達人、平田禿木氏著に關する「英文學印象記を讀んで」の一篇は、その昔、自分が、まだなま青い書生の頃、先輩格の友人の談話を傍で謹聽しながら、話の中に、次から次へと出てくる書物や、人物やらの、自分には、多くは初耳の名前に、ほと／＼己が無學を持てあまし、歸宅の際、最早その書物を購ひ、又は人物傳をあさり求めて、次の會合までに、五分ても、一寸でも、己が知識の不足を補つておかうとした四十年の過去が思ひ出され、御兩人の英國通のお物語には、つくづく感にうたれて聽き耽りました。たゞ今から、この身の不足をどううめやうかと、それが心配の種です。

明治の五十年も過ぎ、大正も正に十五年、英文學の玄入味のお話、同胞の口から承れるやうになつたのかと思ふと、世は進んだものだなあ！と、深く感じ入ります。例のシエエのお嫌ひも、食通の間によくきく、「あの家の食物も、近頃めつきりまづくなりましたね」「それもそうだらうが、つまり君の口が肥えてきたのさ」と云ふ流儀かと存じます。

秋の半ばの星の空にも似て、おのが向き向きに輝く英文學壇の諸星座の指導の書として、自分は、この一書が、我が出版界に現はれたのを心からよるこぶ。(岡倉由三郎)

東京朝日新聞所載

『郷土制度の研究』の著者へ

私は、小野武夫氏著郷土制度の研究を大嘗若流に雨の一日で轉讀してみた。百五十五頁に至ると、私の郷里である庄内(山形縣酒田港)の本間家のことが載つて居る。而して此本間家の記事は、私共の聞いて居つたことと些か異つて居る。即ち「本間家は本邦第一の大地主であつて、其不動産は維新以前十萬石高を唱へ云々」とあるが、本間家は本邦第一の大地主でないことは勿論、十萬石高の收穫もなかつたことは、現在の本間家が賣却して居る米穀の石數から推算すれば容易に窺ひ得るのである。此賣却石數は現今の世評に依れば約三萬石餘といつて居り、舊藩時代は六萬俵といつて居つた。(庄内藩では一俵五斗二實際は五斗一、二升位も入つて居つたさうである。)問題にする程のことでもないが、一寸思ひ出したから認めた。(大正十四、七、十二、國分生)

寄贈交換圖書雜誌目錄

- 武庫地方郷土史料目錄
- 石川縣天然紀念物調査報告第二輯
- 國學院雜誌第三二の八、九
- 神學協會雜誌第二五の七、八
- 東洋學報第一八の二、三
- 民族學第一の六
- 墓蹟第三輯
- 龍谷大學論叢第二六九號
- 史林第一一の三
- 藝文第一七の七、八
- 國民經濟雜誌第四一の一、二、三
- 史學雜誌第三七の七、八
- 考古學雜誌第一六の七、八、九
- 日本文化大正十五年七、八、九
- 朝鮮史學第七號
- 佛教研究第七の一、二

- 吉井太郎氏
- 山日高等學
- 石川縣大學
- 國學院協會
- 神學協會
- 東洋學協會
- 民族學協會
- 墓蹟發行所
- 龍谷大學論叢社
- 史學協會
- 京師高等商業學
- 神戶高等商業學
- 史學協會
- 考古學協會
- 里見日本文化研
- 朝鮮史學同攻會
- 大谷大學佛教研究會